

障害者病態解析特論（小松 知子）

Advanced Course of Pathologic Analyses of Special Needs Patient（Tomoko Komatsu）

キーワード

- ① 先天異常
- ② 病態メカニズム
- ③ 摂食嚥下機能療法
- ④ オーラルフレイル
- ⑤ 酸化ストレス
- ⑥ 口腔疾患予防

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②,④

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,④,⑤,⑥

授業概要

先天異常などの様々な障害児・者の口腔および全身の特徴を理解するとともに、その原因となる因子に関する最新の研究成果に触れることにより、自らの研究能力を高める。また、科学的根拠にもとづいた知識と論理的な思考力をもとに診断、治療計画の立案、疾患の予防法を修得する。
さらに、先天異常を含めた種々の障害の病態、活性酸素種による酸化ストレスを主とした発症メカニズムにおける最新の研究に関する英語論文を抄読し、プレゼンテーションするとともに、実際の症例においてエビデンスに基づき、多職種協働を含めた治療計画の立案を検討する。

授業科目の学修目標

先天異常を含む種々の障害の原因とその特徴における遺伝子あるいはタンパクレベルでの生理的機能、病態に関する最新の研究成果に触れ、歯の萌出異常や歯および顎顔面領域の形態異常、口腔機能異常、オーラルフレイル、摂食嚥下機能障害、口腔疾患への易感染性などの病態において、酸化ストレスに関連する発症メカニズムにおける科学的根拠に基づいた論理的な治療計画の立案や口腔疾患の予防法に対する思考力を身につける。

授業計画

- ① 種々の障害の臨床症状と遺伝子レベルでの病因論 3コマ 小松知子
- ② 種々の障害の病態、発症メカニズムにおける最新の知見 5コマ 小松知子
- ③ 種々の障害の口腔疾患、特徴からみえてくる病態メカニズム 10コマ 小松知子
- ④ 種々の障害の病態を考慮した診断、治療計画の立案、口腔疾患・摂食嚥下機能障害の予防法 12コマ 小松知子

教科書および参考書

- ① 日本障害者歯科学会編:スヘ?シャルニーズ?ンティストリー障害者歯科(第2版)、医歯薬出版 2017
- ② 池田正一・黒木良和監修、日本障害者歯科学会編:口から診える症候群・病気、口腔保健協会 2012
- ③ 和泉雄一・長田 豊監修:Periodontics for Special needs Patients 障害者・有病者の歯周治療 テ?ンタルダイヤモンド 2017
- ④ 鈴木敬一郎編集:活性酸素の本当の姿、ナッパ社 2014

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

種々の障害の定義や概要(疫学、概念、病態、合併症)および口腔の特徴に関する基本的知識を必要とする。
種々の障害の原因となる酸化ストレス(医学・歯科学)学に関する基本的知識を身につけていること。
医療倫理やスヘ?シャルニーズに関する基本的知識を身につけていること。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 種々の障害の臨床症状と遺伝子レベルで酸化ストレス病因論について説明できる。
- ② 種々の障害の病態、発症メカニズムについて説明できる。
- ③ 種々の障害の病態メカニズムと口腔疾患を関連づけて説明できる。
- ④ 種々の障害の病態メカニズムを考慮した診断、治療計画の立案、口腔疾患の予防法を記述できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
30%	0%	40%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験(多肢選択式客観試験)は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回30%
- ・レポートは、障害者病態解析特論授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い、知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

障害者病態解析特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。